



2007～2008年度
国際ロータリーのテーマ
RCは分かちあいの心
2007～2008年度
ウィルフレッド J. ウィルキンソン

Weekly Report

創 立：1980年(昭和55年)1月10日
会 長：岩本 成郎
幹 事：西本 哲
クラブ広報委員長：亀井 直人
例 会 日：毎週木曜日PM12:30～
会 場：ヒルトン名古屋
事 務 局：460-0008
名古屋市中区栄1丁目3-3
ヒルトン名古屋910号
T E L：052-211-3803
F A X：052-211-2623
M A I L：2760nagoya@mizuho-rc.jp
U R L：http://www.mizuho-rc.jp/

第1332回例会

～会員増強及び拡大月間～
クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2007年8月30日(木) 晴 第8回

司 会：馬場 将嘉会場委員
斉 唱：「それでこそロータリー」

会長挨拶

岩本成郎会長

皆さんこんにちは。
8月28日は6年ぶりの皆既月食でした。午後7時ごろ南東の方角に浮かんだ月は完全に地球に包まれ、約1時間半過ぎ、月はもとの姿に戻りましたが、雲の切れ間に見ることができたかと思ひます。厳しい暑さが続きましたが涼を感じる今日この頃となりました。



～今も昔も変わらぬ風呂敷～

米を一升買いに出る、ついでに風呂敷をさげたまま逢初橋の夜店を歩いて見た。

林芙美子の「放浪記」の一説で風呂敷をさげた描写が良いですね。また、この作品には風呂敷がしばしば登場します。例えば、部屋の中に雑然と転がった風呂敷包み、扇子や化粧品を入れて背負うねずみ色の風呂敷、残りご飯の弁当を包んだ風呂敷…ひと昔前までの日本人の必需品であり、文学や映画では哀歓をかもし出す大事な小道具でした。そんな風呂敷と同じようにものを布に包んで覆う文化が他の国にもあるということを教えられました。

瑞穂区の名古屋市博物館で開催された「世界大風呂敷展」(06年5月～6月16日)東アジアや中近東、アフリカ、南米と24カ国400点の楽しい布が展示され、さまざまな国の人々が豊かな色彩やデザインの布を使い、物だけでなく幼子を包んで運ぶ。写真で見る姿は愛の心も一緒に包んでいるようです。

そして、風呂敷や布は知恵も包んでいます。改まった進物を送る時の隠し包み、また、細長い品を包む二つ結びなど、体験コーナーで見せてもらった風呂敷の包み方、瓶包みなどはなかなかおしゃれて装飾にもなります。古き時代の心映えや柔らかい知恵を偲ばせます。そんな風呂敷ではありますが、最近の姿を消しつつあっても「新鮮」として使い出す若者もいるそうです。

日本の財産でもある風呂敷が、少しでも見られればと思ひます。その昔、背中にたらし英雄気分で走り回る子供の姿もありました。

出席報告

田中隆義出席副委員長

会員72名 出席51名 (出席計算人数50名)

出席率82.0% 8月23日は補填により 96.0%

幹事報告

西本 哲幹事

・本日は第2回クラブフォーラムです。委員会の活動計画の報告になっております。各委員長さんは宜しくお願いします。

・次週9月6日はヒルトン28階の「ウィンドーズ・オン・ザ・ワールド」で例会を開催します。例会内容、時間も通常通り12時30分から13時30分迄です。決して夜間例会とお間違えないようにしてください。

同じく9月6日は例会終了後第3回理事会を開催します。13時35分から4階「藤の間」です。宜しくお願いします。

臨時例会変更のお知らせ

名古屋北	9/14(金)			
名古屋東南	9/12(水)			
名古屋和合	9/12(水)			
名古屋名東	9/11(火)			10/2(火)
名古屋名北	9/12(水)※			
名古屋千種				10/2(火)
名古屋栄	9/10(月)※	9/17(月)※	9/24(月)※	10/2(火)※
名古屋昭和		9/17(月)※	9/24(月)※	10/1(月)※
名古屋錦			9/25(火)	
名古屋空港		9/17(月)※	9/24(月)※	
尾張中央	9/12(水)	9/19(水)		
名古屋城北			9/25(火)	
名古屋西南		9/20(木)		
名古屋東山				10/4(木)

(注) ※は休会・その他理由につきピジター受付はありません。

◆はサイン受付時間が17:00～18:00となります。

ニコボックス

田中隆義ニコボックス副委員長

・明日31日は私の誕生日です。 **西 初彦さん**
・今月誕生日です。 **岡本 忠史さん**
・妻の誕生日に花をいただきました。ありがとうございました。

馬場 将嘉さん

・暑さも峠を過ぎたでしょうか。皆様夏の疲れが出ませんように。

吉木 洋二さん

・例会欠席が続きました。 **本多 清治さん**

委員会報告

ロータリー情報委員会：遠山堯郎委員長

08年度のR財団奨学生で、瑞穂ロータリー推薦の橘田直樹くんが5月26日(土)の地区R財団委員会でアメリカ留学が決まりました。私、遠山が橘田君の顧問カウンセラーになっています。彼は、慶応大学出身、現在は、一ツ橋大学の哲学科に在籍しています。地区R財団からの依頼で、推薦クラブへの訪問、卓話を指導されております。現在決まっていることは、12月の家族夜間例会に参加、08年2月14日の例会に卓話者としてクラブ訪問します。

また、9月は新世代月間です。ロータリーの友・左側121ページのロータリーとボーイ、ガールスカウトと一緒に出来たこと、右側18ページのポリオプラスをご覧ください。

クラブ奉仕委員会:高須洋志委員長

クラブ奉仕委員会は8人の委員の方から成り立っていき、それぞれ委員長が委員になっていただいています。したがって、実質活動的な委員会のはずでありますから、そのようにしたいと思っています。最初に委員会を実際にやろうということから勘考いたしました。年間に12回日程をとって委員会をやります。例会の前にこの会場近くの部屋を確保して委員会を行うという予定にしております。たまたま委員になられた方はお気の毒ですが、ぜひご参加いただけるようお願い致します。

それから、今クラブ奉仕委員会で検討していることは、方針や活動計画はクラブ計画書にありますのでお読みいただいて、クラブ全体に関わる問題を会員皆さんで、実際に話し合ったり討論する場がないということで、そういう場を年間のどこかの場を利用して設けたいと思っています。例えば会員増強の問題ですとか、クラブの内部で今抱えている問題ですとか、そういったものを理事会や委員会だけでなく皆さん全員で話し合う場がないなあということですから、そういう場を今年は設けたいと考えております。

もう一つ最後に、会員を効果的に育成するプログラムというのを検討したいと思っています。新しく入れた会員の方にはそれなりに新入会委員研修というのがあるのですが、その後もうワンステップ上の指導者になれるような会員の方を育成するプログラムがないものですから、そういうものをうまくクラブの中に作り上げたいです。例えば、この間のクラブ奉仕委員会で話し合いましたことでは、クラブの定款や細則を実際にお読みになるかどうかを考えますと、たぶんざっとお読みになって、その後お忘れになることが多いと思いますが、新しく委員長になられた方に集まっていただいて、定款・細則の読み合わせをするだけでも違ってくるだろうと思っています。つまりかなりまじめにやろうということです。宜しくお願い致します。

出席・ニコボックス委員会:加納 裕委員長

出席委員会につきましては、計画通り順調に進めさせていただいております。またニコボックス委員会の活動につきましては、今年、本年度より「青少年育成基金」の寄付ということもございまして、2カ所ございますので、皆様方、活発にお願いをしたいと思います。ご本人の会社の行事や家族のことで、いいことなどありましたらぜひともニコボックスの方でお願い致します。

職業分類・会員増強及び退防・会員選考委員会:天野正明委員長

委員会は4つになると思いますが、会員増強では孤独な感じを持っております。

クラブ奉仕委員長にはクラブ奉仕に関わる委員会全体で「会員を増やす」ということを今年度の重要なこととして、取り上げていただいております。また、前回の例会には、地区会員増強委員長の菊岡様にも来ていただいて、卓話をさせていただきました。

このままでは、段々人が少なくなるということは、残念ながら冷厳な事実です。幸い、各職場で指導的な人ばかりですので、それぞれのお力を拝借して一人でも多く入れる努力を共にしていきたいと思っています。そのための仕組みを9月の理事会で議論していただいて、積極的に増やす意識を高めていきます。皆様のご協力を切にお願いいたします。

クラブ広報委員会:梅村昌孝委員

今までにWeeklyを7回発行いたしました。クラブ広報委員が不慣れなところに加えて、構成をお願いしているメディアアートの担当者も新人で、当初バタバタしておりましたが、ベテランの井上さんに助けてもらいながら、最近ようやく落ち着いてきました。これからも皆様のご協力をいただきながら、わかりやすいものを発行していきたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。

親睦活動委員会:長坂邦雄委員長

親睦委員会は6人仲良くまとまって、委員会活動を一生懸命やっております。RI会長のテーマが「分かち合いの心」会長方針が「会員の親睦を深め、明るい・楽しい・活力あるクラブ」になるよう、委員会活動に力を入れるということで、我々ももちろん頑張らなければいけないということです。7月26日に親睦例会が終わりました。あと、12月6日にクリスマス例会、12月20日に上期反省会、1月10日に創立記念例会、4月6日に春の家族会、4月24日にロータリーアクトの合同例会、6月26日に下期反省会という予定になっております。皆さんふるって参加していただけるようお願い致します。

プログラム委員会:近藤雄亮委員長

私は普段からみんなで何かしようという時は、一番始めに何をやるかとかその本質の理解が大事だと思います。あるいは、一緒にやろうとする場合、お互いの気心というものが大変大切なものだと思います。そういった意味で、先ほど高須委員長が言いましたように、我々毎週会って話し合っていますが、意外にわかっていない部分があるのではないかと気がします。例えば、国際奉仕とは何をするのか、どんな種類のものがあるのか、国際奉仕と財団とはどんなつながりがあるのか、など、意外とわかっていない部分があると思います。それからロータリーに一番大事な綱領がありますが、この一番基本になるものがわかっているのかなという部分があります。そういった意味で各委員長さんが委員会の活動や、委員会の持っている意味を卓話を通じて噛み砕いて話していただくとうれしいのではないかと思います。今年はいは各委員長さん方、あるいは地区に出向している委員の皆さんにできるだけロータリーのあまり知られていない部分をお話していただけるとありがたいと思います。

もう一つ綱領ですが、その中に奉仕の機会を利用して知り合いを広めるとありますが、クラブ奉仕の中にこのプログラムがあります。これも大事なことでないかという意味で、我々の知らない知識を持った外部の方に来ていただいて知り合いを広めるのもプログラムの一環ではないかと思っております。

プログラム委員会は年間8回の卓話を受け持っていますが、そのうち4回は埋っております。もし皆様方の中でぜひ話したいという方がみえましたら、私の方へ申し出てください。宜しく願いいたします。

ロータリー情報委員会:遠山堯郎委員長

ロータリー情報委員会は「ロータリーの友」の主立ったことを皆様にお伝えしています。ロータリーとボーイスカウト・ガールスカウトと一緒にできたこと、ポリプラスが絶滅宣言が4カ国出せていませんでした。現在3カ国です。

地区の「ロータリー未来」という委員会ができました。私は委員になっておまして、毎月になりました。大きなテーマはCLPですが、ロータリアンの責務は出席すること、会費を払うこと、ロータリーの友を読むことが3大義務です。そういうことがほとんど理解されていません。今やるようとしていることは、入会されている方の在籍年数に応じて色々なことを聞いて、それをまとめあげようとしています。やはり口だけで会員がちっとも増えません。当地区は現在5,198名で日本で2番目です。10名多いのが、福井・滋賀・京都・和歌山の2650地区です。なので、この地区が11名増えると日本一になります。会員が減ると友情も親睦もどこかに飛んでしまうということを何とかして3年間でロータリー未来委員会の筋書きを立てようとしています。

会場委員会:渡辺喜代彦委員長

会長方針「明るい・楽しい・活力ある例会」に努めてまいりたいと思います。今特に気を使っているのは食事ですが、今年は季節感のあるものを皆様方にご提供していきたいと思っております。

職業奉仕委員会:高木 勝委員長

今月8月21日に2760地区の職業奉仕委員長会議というのがありまして、私自身も長い間勉強して、なんとなく職業奉仕委員会というものがあったような気がします。また卓話などを通じて職業奉仕に対して皆様にも少しでもご理解いただけるように、委員のみなさまと相談しながら、広くロータリーの職業奉仕についてもうちよっと普及ができるよう、なんとかこの1年やっていきたいと思えます。

伝達事項ですが、毎年行っている職場例会ですが、クラブ計画書の通り、本年度は10月18日になっております。また詳細につきましては、来月初めの理事会で決定次第なるべく早く皆様方にご連絡をしたいと思っております。

社会奉仕委員会:田中政雄委員長

今週南ロータリーの桜井さんから「熱田神宮に4ロータリーで寄贈するAEDについて」という書類がまわってきました。それで、各クラブ負担金ということで、4ロータリーで分散する金額261,275円、その他に講習費などの費用がかかると思えます。寄贈する日程は、10月24日(水)になっております。その日にAEDについての講習会が設けられます。早く申し込んでいただければ何名でもOKです。

環境保全委員会:松岡道弘委員長

会長スローガンである「和の心」RI会長テーマ「分ち合いの心」を基に自然エネルギーの活用状況につとめて参りたいと思えます。第1回ロータリー2760地区の第1回環境保全委員会が9月19日にあります。またこの件についてご報告させていただきます。

新世代・ローターアクト委員会:松波恒彦委員長

このロータリークラブの前任者が高須さんということで、両方の委員会を受け持たせていただいて、前年度はかなり一生懸命やられていたということで、本年度、特にローターアクトなどは私への期待がすごいわけです。同じようにやってほしいということで、それで少し苦勞をさせていただいております。

一つお礼がございます。新世代委員会の方で、「青少年育成基金ご協力」ということで、先週までで48万円のご寄付を頂いております。1度だけでなく何度でも毎週でもいいので、宜しくお願いいたします。

そしてもう一つ、ローターアクトですが、クラブから近藤雄亮さんのご子息、伊藤 豪さんのご子息、高木さんのお嬢様が入ってらっしゃいます。私どもの従業員も1人入れました。愛知県で一番多い人数になっております。そくそくと入っているの40名を超すのではないかと思っております。来週の理事会ではアクトの決算と予算の報告をさせていただきます。宜しくお願いいたします。

国際奉仕委員会:平野好道委員長

昨年度は台北延平RCの30周年記念に多くの方が来ていただいてありがとうございました。今年度は台北延平との姉妹提携の更新の期限がまいりますので、また台湾へ多くの方に行っていたきたいと思います。

ロータリーの国際大会が2008年6月15日からロサンゼルスで行われます。

ロータリー財団委員会:伊藤 豪委員長

先月の7月27日、2760地区のR財団セミナーに行っていました。そこでの話題は恒久基金や地区補助金の話でした。特にベネファクターに関しましては、歴代の会長・幹事経験者の皆様はベネファクターになっていただいていると聞いています。

米山奨学委員会:馬場將嘉委員長

先週の木曜日に当地区の委員長セミナーがあったので行ってきました。米山奨学の寄付した金額が序列で全部出てきます。当地区は全国で5番目くらいですが、瑞穂RCが下から数えた方が早かったので、ひとつよろしく願います。個人では皆様に

ご協力頂いていますが、法人の方も税控除がありますので、ひとつよろしく願います。

10月25日に卓話になっています。増田さん宜しくお願いします。

長期ビジョン委員会:大島浩嗣委員長

昨年度「クラブテーマの策定」「クラブ細則」「クラブ定款の変更」「青少年育成基金の創立」の4点決めさせていただきました。今年度の委員会活動といたしましては、まず瑞穂RCのテーマ「熱田の杜・友愛・気品」をさらに徹底してクラブテーマの浸透を図りたいというのが第1点。第2点目は青少年育成基金を継続していくためにも、この1年2年3年が重要かと思われます。折に触れて皆様をお願いをして立ち上げをキチッとできたらという感じしております。皆様のご協力をよろしく願います。

ロータリーワールド

ココナツで生計を立てるフィリピンの村人を援助をするクラブ

米国コロラド州フォートコリンズ・ロータリー・クラブとフィリピン、アクランのメトロ・カリボ・ロータリー・クラブは、フィリピンの小さな村イバジェイのココナツ農家のために、廃棄物を収益に転換する援助を行いました。

米貨5,000ドルのロータリー財団マッチング・グラントの援助を受けて、これら2つのクラブはココナツを利用した生計支援プロジェクトを実施しました。このプログラムは、地元のココナツ農家に、廃棄物であるココナツの殻を「ココネット」に転換するための材料と労力を提供します。地域社会にとっては、環境面、経済面、社会面での利点があります。

このプロジェクトは女性、学校に行っていない青少年、高齢者、障害者の雇用率を高め、ココナツ産業を活性化するものです。プロジェクトが開始される前は、ほとんどの女性には所得能力がないも同然でした。今では、稼ぎ手となった女性は、地域開発にも参画する力を得ました。また、学校に通っていない青少年を雇用することによって、地域での小犯罪が劇減しました。

同国最大の農業廃棄物はココナツの殻です。通常はそのまま放置して腐敗させるか、焼却しますが、その場合は温室効果ガスを放出することになります。今では農家は、土地の侵食や劣化に対する環境にやさしい解決策として、ココナツをジオテキスタイル・ネットとして使用しています。その他にもココナツ外皮の副産物であるココナツ・ダストは、土壌改良剤、マルチ、有機肥料の原料として使われています。

カリボ・ロータリー・クラブが作業小屋と倉庫の増設のための労力と材料を寄付し、より糸やネットの作り方の研修も企画しました。

ココナツ農家の持続可能な発展を援助するSustainable Rural Enterprise社の社長、ロータリアンのパーラ・マナポールさんは、このプロジェクトが小さな地域社会に恩恵を与えるのを自ら目の当たりにしました。「この国の経済的発展は、貧しい地域社会にまで行き届いていません」とパーラさんは語ります。「このようなプロジェクトへのロータリーの関与によって、小さな地域社会も恩恵が漏れなく行き渡るようになります。究極的に国全体の進歩は地方社会の経済発展に依存していますが、ロータリーはこのことを理解しているのです」



ココナツ・ネットを編むことによって生計を立てているフィリピンのイバジェイ村の女性

アフリカのエイズ孤児のために歩いたロータリー奨学生

4人のロータリー財団国際親善奨学生とロータリー・クラブの後援する1人の学生が、去る12月、疲労や足の痙攣(けいれん)にも負けず、南アフリカ国内1,200マイル(1,920キロメートル)以上の道のりを踏破しました。アフリカ南部で推定146,000人いると言われているエイズ孤児を援助している「エイズと闘うロータリアン行動グループ」のために資金を集め、その認識を高めるのが、5人の学生の目的でした。

このロータリアン行動グループのリーダー、マリオン・パンチ氏がエイズ孤児援助の必要性を熱心に説明するのを聞いたウィットウォーターズランドのヨハネスブルグ大学の学生、キーガン・コーツキーさんと他の3人のロータリー財団奨学生は、地元ロータリアンの協力を促す良い方法はないかと考えました。20日間にわたり、彼らはヨハネスブルグからケープタウンまで歩き、途中、21のロータリー・クラブを訪れては、多くのエイズ孤児の悲惨な生活状況を改善するための支援を求めました。

5人の学生は、この徒歩旅行で米貨7,000ドル以上を集めました。この資金は、エイズと闘うロータリアンがアフリカ全域で地域社会に根ざすプログラムを立ち上げ、介護者を訓練し、エイズ孤児に精神的・社会的サポートを提供するために活用されます。今回の慈善の徒歩旅行は、捨て去られ、貧しく、栄養失調で、最も基本的な医療さえ欠くこのような子供たちの惨状に注意を呼びかけるロータリーの取り組みのほんの一例にすぎないとコーツキーさんは言います。

「ロータリアンがアフリカのエイズ孤児の危機的状態を理解できるよう、私たちは歩き始めました」とコーツキーさんは説明します。「この大義のために資金を集め、人々の認識を高めようという熱意が、踏破成功の大きな原動力となりました。行動を起こすようクラブの意識を高めることができたなら幸いです」

パンチ氏は、これら学生とロータリアンの情熱、理解、思いやりが子供たちを援助する動機になったと言います。「これらの孤児は大きなニーズを抱えています」とパンチ氏は加えます。「これにロータリアンの心を向けるには、特別な人たちの協力が必要です。これらの奨学生たちは、ひらめきで効果的な募金活動が実現できるという輝かしい例を示してくれました」



左から: 運転手ルアン・クルツさん、踏破旅行者のケリー・ルイスさん、ライアン・マクドネルさん、キーガン・コーツキーさん、ジェイコブ・マボジャさん、前川生民(いくみ)さんが、エイズ孤児支援のため1,200マイル以上を歩いた後、南アフリカのケープタウンで成功を祝っています

アフガニスタンの危険地帯でポリオと闘う米国のロータリアン

3月下旬、第6560地区のガバナー、ジム・グラハム氏が、米国のロータリー・ボランティアとして初めて、戦争で荒廃したアフガニスタンを訪れました。カブールに到着すると、国連の担当者から、ホテルから外出する際には必ず国連の護衛とともに国連の車で移動するようにとの指示を受けました。

「治安の悪化に対する懸念が漂っていました」とグラハム・ガバナーは語ります。「ホテルの壁は分厚く、到着する車に対しても厳戒な警備が敷かれていました。平服姿の泊り客の中にもピストルを携帯している人たちが見えました」

5日間の滞在の2日目には、泊まっていたホテルから300メートルも離れていない場所で自爆テロが発生しました。現場は、わずか15分前にグラハム氏が国連チームとともに車で通り抜けた場所でした。

米国のインディアナ州、ブラウンズバーグ・ロータリー・クラブ会員であるグラハム氏のこの旅行の目的は、政府の役人、国連および世界保健機関の担当者とともに、ポリオの予防接種を実施するために大がかりな戸別訪問を行うというものでした。

予防接種の対象となったのは、5歳未満の子供およそ730万人です。グラハム氏は予防接種担当チームの監査にあたり、必要量の経口ポリオワクチンが確保されているか、予防接種を受けた子供

の数が正確に記録されているかを確認しました。

グラハム氏のチームは、戦禍の痛手も生々しいカブール周辺地域を訪問しました。また、政府と西側諸国に対抗するタリバン勢力の支配する危険地帯付近にまで足を伸ばしました。

「私が訪問した地域では、綿密な記録が取られ、ワクチン投与も適量が驚くほど正確に守られていました」とグラハム・ガバナーは語ります。

アフガニスタンを訪れるまで、同ガバナーはポリオ・キャンペーンに参加したことがありませんでした。参加のきっかけは、2年前に出会った2人のアフガニスタンの子供たちでした。ギフトオブライフ命の贈り物」というプログラムを通じて、インディアナポリスで心臓の手術を受けた彼らを、妻のロバータさんとともに世話したのです。

アフガニスタンは、インド、ナイジェリア、パキスタンと並ぶ最後のポリオ常在国となっています。昨年10月、ポリオ・プラス・プログラ



ムは、1月から4月にかけてアフガニスタンで予防接種活動を実施するための資金として、80万米ドルを調達しました。

アフガニスタン、ワルダック地方の行政官とともにポリオ予防接種の計画を検討するジム・グラハム・ガバナー(左)

アフリカのエイズ孤児のために歩いたロータリー奨学生

RIのウェブサイトを訪れるだけで、ロータリアンはショッピングとロータリー財団への寄付を同時に行なうことができます。

参加地域のロータリアンが国際ロータリー・マスターカードまたはアメリカンエクスプレス(米国のみ)を使うたびに、購入金の一部が財団に寄付されます。2000年にこのプログラムが開始されて以来、財団は米貨500万ドル以上を受け取ってきました。

カナダ、英国、米国のロータリアンは、国際ロータリーとオンライン・ショッピング・モールのCareClicks.comとの提携により、1,000店以上の優良業者から割引を受けることができます。2005年に開始されたこのプログラムは、購入金額の一定割合が財団に還元されるという点で、上述のクレジットカード・プログラムと類似しています。

ロータリアンに割引を提供する公式ロータリー協賛者には、Avis, Berlitz, Black Berry, Budget, VoiceStickなどがあります。

「このようなプログラムに参加するために、ロータリアンは何の犠牲を払うことも要求されません」とRI法人業務・グローバル旅行業務部長のロバート・ミンツは説明します。物やサービスの価格に割引が適用され、支払額の一部がロータリー財団に還元されるという仕組みです」

2006年11月より、米国のロータリアンは、eBayでの販売によっても財団に寄付できるようになりました。

eBayの慈善部門MissionFishを通して、売り手はオークション収益の一部または全部を財団が受けるよう指定することができます。

「すぐに寄付できる資金はないが、それでも財団に寄付したいという方もいます」と財団の計画的寄付・大口寄付担当部のクリスティーン・ジョンソンは言います。

「MissionFishはそういう機会を提供し、納税申告用の領収書も提供してくれます」

上記プログラムを通じての寄付は、ポール・ハリス・フェローまたはその他の財団寄付者認証プログラムの対象となりません。詳しくは、www.rotary.org/shopをご覧ください。

今週卓話

9月6日(木)

卓話講師: RI第2760地区2007~2008年度地区社会奉仕委員長
伊藤 秀雄さん

テ - マ: 「人の命とは」

次週卓話

9月13日(木)

会員卓話: 松波 恒彦さん

テ - マ: 「明治の洋画家 山本 芳翠」